

1年「グローバル講演会」開催

令和6年3月5日(火) 講師に加藤寛幸氏をお迎えし、「グローバル講演会」を本校蛍雪館ホールにて開催しました。

加藤氏は、2003年より「国境なき医師団」の活動に参加され、アフリカやアジアの他、国内の災害支援にも従事されました。2015年～2020年には国境なき医師団日本会長を務め、2022年にはウクライナでの活動にも参加しておられます。グローバルな現場での活動を分かりやすく説明していただき、そこで加藤さんが経験した「世界の現状」と、そこから見える「私たちと世界のつながり」などについてお話していただきました。また、生徒の事前質問についても丁寧に答えていただきました。

「人道」とは何か？世の中に存在する「平等」「公平」「現実」について、南スーダンやシエラレオネの現実、戦争はなくなるのか、といったとても深く考えさせられる内容でした。加藤氏からは著書「生命の旅、シエラレオネ」を寄贈していただきました。



<生徒の感想>

- ・現状の課題として、世界の中で「格差」ということが多くあると思います。報道だけに流されるのではいけないということがよくわかったので、自分で情報を集める情報収集力を身につけたい。
- ・今回の講演を通して、自分が知っている国や戦争でも、現地に言った人が見たり聞いたりしたことは、全く別のこのように感じられて、もっとたくさんの角度から物事を見れていないと、意見を言ったり、考察したりする意味がないと思いました。頭を柔らかくして課題を解決する力をつけたいです。
- ・お話の中に登場した「誰も口にしなくなるのは、他人事になったり、線引きをしったりするから」という言葉がすごく心に響きました。
- ・自分の目先の利益だけにとらわれなくて、相手のことや、遠くのこと考えられるような広い視野で物事を考える事ができるようにしたい。
- ・先生の講義を聴き、私も一つ一つの出会いを大切にしようと思いました。出会いは、今はまだ分からないけど、将来振り返った時にかけがえのないものになる可能性があると感じました。
- ・やっぱり何事にも最善を尽くすことは大切なんだと思いました。最善を尽くしても全てのことができるわけではないので、せめて全力は出さないといけないと思いました。
- ・世界の問題を何とかしたいとは思っても、あまり調べたりしていなかったことに気づいて、まずは知ることから始めなければならないと思った。
- ・加藤先生の講演を通して、今地球上で起こっている問題について、解決していくことから目を背けて、自分には関係ないという理由で逃げていたと思います。改めて人のためにつくすことの大切さについて気づかされました。

